

第6章 実施に向けて

6-1 実施計画の推進

大芝高原森林づくり協議会は、村民アンケート調査の結果等を基に村民や利用者のニーズを考慮した大芝高原の新たな森林づくりについて協議を重ね、具体的な取り組みを定めた「実施計画（Plan）」を作成しました。

この実施計画に基づき、村が新たな大芝高原の森林づくりを「実行（Do）」します。実施計画を確実に実行するため、村3か年実施計画等により中長期的な視点で詳細な実施箇所や施業方法等を計画し、継続的に事業に取り組みます。

実行した成果は、単年度ごとに村が南箕輪村森林協議会（以下：「森林協議会」）に報告し、森林協議会が進捗状況・効果を「検証（Check）」します。松枯れ被害の状況や社会情勢の変化等により計画に変更が生じる場合もありますが、計画に遅延等が発生した際にはその原因を明らかにし、必要な「改善（Action）」を行い、計画の修正・補完を行います。村が計画を実行し、森林協議会が検証する「PDCAサイクル」を行うことで、実施計画を推進します。

また、令和12年（2030年）には実施計画全体の進捗や成果・効果を検証し、次期実施計画を策定します。この検証においても、村民、利用者、有識者等の評価を重視し、本計画の改善を行いながら新たな計画を推進します。



図6-1 PDCAサイクル（Plan-Do-Check-Action cycle）による実施計画の推進



6-2 住民参加の森づくり

大芝高原の森林は、村民のみなさんの手によって育てられた、村民共通の財産です。これまで多くの方々が関わって森林がつくられてきたように、今後の森林づくりにおいても村民のみなさんが参加・協力して取り組むことが重要です（図6-2）。

本計画を実施することにより、様々な世代の方々が大芝高原の森林とつながることができる環境を整備し、村民のみなさんとともに、「守り・育てる」新たな大芝高原の森林づくりを進めていきます。



図6-2 村民のみなさんと共に「森をつくる」「森をつかう」「森とつなぐ」取組